

# 漢文「重要助字」確認テスト（之・而・於・以・乎ほか） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾

組 番 氏名

／100点

## 本文

※例文は学習用です。

- ① 学而時習之。(学びて時に之を習ふ)
- ② 己所不欲、勿施於人。(己の欲せざる所、人に施すこと勿かれ)
- ③ 青取之於藍、而青於藍。(青は之を藍より取りて、藍より青し)
- ④ 知之者不如好之者。(之を知る者は之を好む者に如かず)
- ⑤ 学而不思則罔。(学びて思はざれば則ち罔し)
- ⑥ 仁者樂山、知者樂水。(仁者は山を楽しみ、知者は水を楽しむ)
- ⑦ 是知也。(是れ知るなり)
- ⑧ 朝聞道、夕死可矣。(朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり)
- ⑨ 割鷄焉用牛刀。(鷄を割くに焉んぞ牛刀を用ゐん)
- ⑩ 王坐於堂上。(王、堂上に坐す)
- ⑪ 以五十歩笑百歩、則何如。(五十歩を以て百歩を笑はば、則ち何如)
- ⑫ 吾与汝畢力平險。(吾汝と力を畢くして險を平らげん)
- ⑬ 苛政猛於虎也。(苛政は虎よりも猛なり)
- ⑭ 吾日三省吾身。(吾日に吾が身を三省す)

## 設問

1. 例文①の傍線部「而」は、訓読でどのように読む（扱う）か。その働きとあわせて答えよ。
2. 例文①の傍線部「之」は何を指すか。指示内容を簡潔に答えよ。
  - あわせて「之」の読みを答えよ。
3. 例文②の傍線部「所」について、次に答えよ。
  - 読み（送り仮名を含む）を答えよ。
  - 「所不欲」の意味を答えよ。
4. 例文②の傍線部「於」の働きとして最も適切なものを次から選べ。
  - ア 比較    イ 場所    ウ 対象（受身ではない）    エ 起点
5. 例文③には「於」が二度出てくる。それぞれの働き（意味）を区別して答えよ。
  - 一つ目「取之於藍」の「於」
  - 二つ目「青於藍」の「於」
6. 例文③の傍線部「而」は読まない置き字である。この「而」が示す前後の関係（順接か逆接か）を答えよ。

7. 例文③の傍線部「之」の読みと、指示内容を答えよ。
8. 例文④の傍線部「之」（二か所）の読みと、共通する指示内容を答えよ。
9. 例文⑥の傍線部「者」の読みと働きを答えよ。
10. 例文⑦の傍線部「也」の読みと働きを答えよ。
11. 例文⑧の傍線部「矣」について、読むか読まないか、またその働きを答えよ。
12. 例文⑨の傍線部「焉」の読み（送り仮名を含む）と働きを答えよ。
  - あわせて、この文の意味（現代語訳）を答えよ。
13. 例文⑪の傍線部「以」の読み（送り仮名を含む）と意味を答えよ。
14. 例文⑫の傍線部「与」の読み（送り仮名を含む）と意味（働き）を答えよ。
15. 例文⑬の傍線部「於」の働きを答えよ。あわせて「猛於虎」の意味を答えよ。
16. 例文⑤の傍線部「而」の働きを、例文①の「而」と比較して答えよ。
  - ①の「而」の働き
  - ⑤の「而」の働き
17. 例文⑩の傍線部「於」の働きを答えよ。例文③・⑬の「於」と用法が異なる点に注意して答えること。
18. 次の例文を書き下し文に改めよ。（返り点・送り仮名にしたがうこと）
  - 例文②「己所不欲、勿施於人。」
  - 例文④「知之者不如好之者。」
19. 次の傍線部を現代語訳せよ。
  - 例文⑤「学而不思則罔。」
  - 例文⑧「朝聞道、夕死可矣。」
20. 「於・于」は置き字として読まれないが、文中では複数の意味を表す。本問の例文に出てきた「於」の用法を、「場所」「比較」「対象」の三つに分類し、それぞれ例文番号を一つずつ挙げて説明せよ。（記述）
21. 「之」は文脈によって読みと働きが変わる字である。本問の例文に出てきた「之」のうち、「これ（指示代名詞）」と読むもの以外に、「の」と読む例や動詞「ゆく」と読む例があるかどうかを述べたうえで、「之」が多機能の字であることを、例を挙げて説明せよ。（記述）